

## 序

四季に美しい奥多摩の山々、そして、広がっていく武蔵野台地の一端にある福生、その附近の自然も、近年、急激な変ぼうをとげようとしています。多摩川の流れも、開発がすすむに従って、今では水泳もできないほど汚れはじめてきました。こうした自然の破壊が、埋蔵文化財の破壊と直接つながっていることを感じるたびに、心いたむ思いがします。

本市が、埋蔵文化財の保護、保存を考え、市内の唯一の遺跡である長沢遺跡の発掘、調査し、先住民の生活と文化を記録し、今後の市史編纂の資料等に役立てようと計画していたところ、福生市民の手で、この発掘が実現したことをうれしくおもいます。

“福生市の歴史は、福生に住む市民が明らかにしていくのだ、ということで、この発掘に参加された多くの先生がた、また市民の皆さんには心から感謝します。また、この発掘を指導して下さった塩野半十郎先生（秋川市在住）および第一中学校の川鍋先生の熱心な協力に対し厚くお礼申しあげます。

この報告書が、多くの市民によまれ、市の文化財保護に対する一役をはたせれば、さいわいと存じます。

昭和47年3月

福生市教育委員会  
教育長 町田倍二

## 目次

1. 序文 .....	1
2. はじめに .....	2
3. 福生市概観 .....	3
4. 発掘までの経過と周辺遺跡 .....	5
5. 調査の概要 .....	6
6. 調査日誌 .....	7
7. 図版説明 .....	10
8. 写真図版 .....	13